



■ 特  
集

当寺二世中興

大圓武志大和尚追善法要

歴代住職墓・供養塔

開眼並びに入塔諷經



お蔭さまで善光寺歴代住職墓・供養塔が完成致しました。

平成二十五年五月二十八日、恒例の身代り不動明王大祭の後、本寺光真寺住職黒田泰弘老師を焼香師にお迎えして開眼並びに入塔の法要が、総代・関係者一同ご列席のもと盛大に厳修されました。

墓処は善光寺より巽（南東）の方位。寺や参道が一望できる日野墓地高台の一画です。

開発・企画・設計・施工は、すべて地元石材店十社からなる日野石材工業組合さまが一大プロジェクトチームを結成し、まことに渾然一体となり美事な善光寺墓を建立。寺の大願成就へと導いて下さいました。

当日は、日野石材工業組合さまへ感謝状授与の後、住職は次のように御礼申し上げます。

師父武志和尚は生前、「今日の善光寺が在るのは、日野墓地近隣の地元石材店様方のご支援、



日野石材工業組合の皆さまと

ご協力があつてのお蔭である。ありがたいことだぞ。大事にしるよ。尽せ。」と口ぐせのように言っておりました。

この度、身に余る素晴らしいお墓が建立され、今日の「開眼法要」と「入塔諷経」まで無事に導いて頂きましたのも地元石材店さま全社のありがたい絆の証であり、師父もほんとうに、本当に喜んでいる事と思います。今にも両手を振って「ありがとう、ありがとう」と、にこやかにお一人おひとりに声をかけている姿が目に見えられます。

私も今よろこびと感謝で胸が一杯です。心より厚く厚く感謝、御礼申し上げます。これからも皆さま、師父同様にご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

五月晴れの空、爽やかな風が、善光寺積年の願いであつた報恩の供養塔を吹き抜けていきました。多くの感謝の思いをのせて。

合掌



墓域には「祖師を敬い慎んで釈尊に還る」と刻まれた碑がたつ

